

学校関係者評価報告書
(令和4年度)

令和5年6月

学校法人 都築科学学園
関東柔道整復専門学校

令和4年度 学校関係者評価報告書

学校法人 都築科学学園
関東柔道整復専門学校
学校関係者評価委員会

学校法人 都築科学学園 関東柔道整復専門学校 学校関係者評価委員会は「令和4年度自己評価」の結果に基づいて学校関係者評価を実施したので、下記のとおり報告します。

1. 学校関係者評価委員

氏名	所属	選出区分
木村 浩吉(委員長)	元 横浜 F・マリノス 監督	業界関係者
椎葉 一樹	第一学院高等学校 町田キャンパス キャンパス長	高等学校関係者
栗田 弘和	株式会社メディカルスポーツエージェント 代表取締役	企業関係者
山川 睦	やまかわ整骨院 院長	企業関係者
川端 翼	アシツク整体院 院長	卒業生

2. 本校出席者

氏名	役職
都築 稔	学校長
伊藤 尚司	校長代理・事務長
加藤 稔啓	学科長
小田 敏明	学科主任
諸井 祐典	事務次長
兵藤 宜昭	広報課長
中野 史之	事務職員・書記係

3. 日時・場所

令和5年6月18日(日) 午前10時～11時30分
関東柔道整復専門学校 5F基礎医学実習室

4. 会議の概要

- ・学校長挨拶
- ・委員紹介、教職員紹介
- ・令和4年度自己評価について
- ・令和5年度運営計画について
- ・質疑応答、意見交換

5. 令和4年度自己評価における学校関係者評価

評価項目	平均値	学校関係者評価
1.教育理念・目標	3.2	○学校の理念・目的・育成人材像等は明確に規定されていると認識している。 ○学生や保護者等に対しての周知徹底に関しては、「伝える」⇒「伝わる」工夫を期待したい。 ○ホームページやSNSの充実度が上がり、学校が育成人材像と定めている『国家資格＋スポーツ』で、日本のスポーツ・医療の業界で活躍する『スポーツトレーナーのスキルを持った柔道整復師』の人材育成のコンセプトがしっかりイメージできていると思われる。 ○引続きホームルームリポート(学校通信)等で、学生・保護者へ情報発信を行い、周知徹底を行っていただきたい。
2.学校運営	3.3	○コンプライアンスに則った健全な運営ができていると思われる。 ○目的等に沿った運営方針が策定され、それに沿った事業計画は適切に策定されており、ホームページにおいて情報公開が行われている。また、教育活動等に関する情報公開についても同じく適切に公開されていると認識している。 ○昨年度、『教育活動等に関する情報公開が適切になされているか』の自己評価が、『ほぼ適切』から『適切』に改善され、授業科目やシラバス、成績評価・卒業認定などの教育活動に関する情報はホームページで適切に情報公開を行うとともに、学生・保護者に対しホームルームリポート(学校通信)を配信し、学校から各種情報発信を行うことで情報共有・周知徹底を行った事が改善につながったと評価する。引続き学生・保護者に対して情報発信・情報共有を行い教育活動等への理解・協力を得ていただきたい。 ○『情報システム化による業務の効率化が図れているか』に関しては、昨年度同様『やや不適切』の自己評価となっている為、新校務システムの整備を迅速に進め、業務の効率化を図り、学生・保護者の満足度を高めていただきたい。

評価項目	平均値	学校関係者評価
3.教育活動	2.8	○授業評価や教員指導力向上は必要不可欠と考える。指導者も現状に満足することなく、常に向上心を持ち、学校側は向上心を持たせる取り組みを期待したい。 ○教員の意識改革や能力開発は必須事項だと思われる。今あるべき強みは残しつつ、常に新しい視点や視野を持ち、教職員のスキルアップは必要不可欠。変化を躊躇する傾向はどこにでもあるが、変化することで更なる飛躍が目指せると思う。教職員が常に研鑽することで、学校の特色が明確化すると感じる。 ○教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等は策定されており、育成人材像や業界のニーズを踏まえた修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされていると認識している。 ○各業界におけるスペシャリストの講師陣を迎え、関連業界との連携を行っていることが見受けられる。人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、学生指導力の向上及び学生満足度の向上に繋がっていると評価できる。 ○教育理念やカリキュラムがしっかり出来上がっている分、現状の課題に対して、指導者のスキルアップや学生の外部活動における経験が必要だと感じる。学内で関われる限界点があるので、学生自身が主体的に必要なだと理解する機会を創れるとさらに良くなると思われる。
4.学修成果	3.0	○就職率100%はとても素晴らしいこと。就職率・資格取得率の向上は、学生支援体制が充実している証であり、学校の強みとなる。また、新入生の募集にも大きく係わってくるので、継続を期待したい。 ○退学者は昨年に比べ減少したとの事だが、その原因を究明し、対策を講じるとともにクラス担任はもとより外部委託のスクールカウンセリングとも連携を行い、学校全体で学生の状況を把握して退学者『0』を目指したサポート体制の構築をお願いしたい。 ○『卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか』及び『卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動に活用されているか』は、卒業後の離職・転職率も高い業界である為、就職状況アンケート・就職先訪問を実施するなど、状況把握をお願いしたい。そこから校友会活動の活性化を図り、在校生との繋がりを作ることで、資格の有効性や将来のキャリアに希望を与え、資格取得へのモチベーションを高めていけるよう連携強化に発展することを期待する。

評価項目	平均値	学校関係者評価
5.学生支援	3.2	○就職・進路に関する各種支援体制は希望就職率100%を達成していることから、整備されており実績がある。 ○学生相談に関する体制も、クラス担任による対面形式・オンライン形式を併用した複数回による個別面談を通じ、学生の修学環境等の状況を把握するなど、引き続き支援・ケア等きめ細かいサポートを継続していただきたい。また、外部スクールカウンセリングは学生だけでなく保護者も対象となっているとの事。相談窓口・対象者の拡大は有効な対策だと思われる。スクールカウンセラーの役割は大きいと考えられるため、情報共有を行い学生支援に役立てていただきたい。 ○経済的な支援体制として学校独自の『特別奨学生制度』が設けられており、授業料の一部免除という特典は、在学時に勉学に励む目標となっていた。また、長引いた新型コロナウイルス感染症により経済的に厳しい環境の家庭もありえることから、今後も柔軟な支援の継続をお願いしたい。 ○『課外活動に対する支援体制は整備されているか』の自己評価が前年度に続き『やや不適切』と評価されている件については、コロナが5類感染症に移行したことから、課外活動実施に向けたサポート体制を構築していただきたい。課外活動を通して学校で学んでいる知識・技術と、実際の現場で行っている知識・技術の違いや変化を学生のうちに感じて、具体的な進路を意識し国家試験合格を目指して充実した学校生活を送れるよう支援を行っていただきたい。 ○卒業生への支援体制は、キャリアアップや就職先のミスマッチ等で転職率の高い業界の為、ホームページでの求人情報の閲覧・情報提供を継続してサポートをお願いするとともに、相互のメリットとなる環境整備が必要と思われる。
6.教育環境	3.0	○学生が『安心して過ごせる場』であることが最優先。そのような修学環境の整備を期待する。 ○定員に応じた施設・設備・教材が概ね整っていると思われるが、経年劣化による施設のメンテナンス及び設備の定期的な更新は随時対応を検討していただきたい。予算の関係もあると思われるので、計画的な実施を望む。 ○防災に対する体制の整備は、定期的な点検の実施を行い安全管理に努め、実際に災害等が起こった際には適切に使用できるよう準備しておくと同時に、学生に対しても防災教育等、周知徹底を継続して実施していただきたい。

評価項目	平均値	学校関係者評価
7.学生の 受入募集	3.3	○近隣の進学実績のある高等学校に対し、定期的に訪問を行い在校生・卒業生の近況報告を行うなど、信頼関係構築に努めていると評価する。地道に足を使った募集活動を継続し、紹介等による入学者増加を期待する。 ○ホームページやSNSによる情報発信を積極的に活用しており、とても工夫して発信している様子が伝わり非常に好感が持てる。SNSの種類も移り変わりが速く、様々な媒体をうまく活用して学生募集に繋げていただきたい。 ○オープンキャンパスなどの募集イベントでは、来校参加形式・オンライン参加形式を併用し、参加者に合わせたイベントを実施するなど参加者を増やす努力がみられた。しかしながら出願に結び付いていないとの事なので、出願率が向上するような魅力あるイベントとなるよう改善策の検討が必要だと思われる。
8.財務	3.2	○私立学校法及び寄附行為に基づき適切に監査を実施しており、財務情報についてはホームページで公開されていることが確認できる。 ○負債はなく経理努力の成果がみられ、健全な学校運営を行っていると評価する。 ○入学者の減少により減収となっている為、入学者を増やすとともにコスト削減を図り財務基盤の安定化をめざし、教職員全体で改善に向け取り組んでいただきたい。
9.法令等の 遵守	3.7	○法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がされていると思われる。 ○個人情報についてはセキュリティ面に若干の課題があるように思われるので、クラウド管理システム導入等を提案する。 ○自己評価及び学校関係者評価を実施し、ホームページで公開しているが、問題点が改善されていない事項がいくつか見受けられる。改善に向けて教職員全体で問題点の把握、改善策の検討をしっかりと行うことが必要だと思われる。
10.社会 貢献・ 地域貢献	2.7	○新型コロナウイルス感染症拡大防止の中、各種イベントの自粛が続き、社会貢献・地域貢献に係る活動は困難であったが、コロナも終息に向かいつつあるので今後の各種活動に期待したい。 ○トレーナー養成に力を入れるのであれば、地域スポーツ活動・スポーツチームとの連携は必須。継続的に関わりを保ち、幅広く活動を行う事で学生の良い経験となるよう活動を行っていただきたい。また、その様子をホームページやSNSを通じ積極的に発信し、学校のブランド力向上に努めていただきたい。

6. 令和5年度における運営計画

【学校の方向性】

『国家資格＋スポーツ』で、日本のスポーツ・医療の業界で活躍する人材、
『スポーツトレーナーのスキルを持った柔道整復師』
をコンセプトに養成する。

【運営方針】

- ① 『国家資格＋スポーツ』で学生の学ぶ領域の拡大
 - ・スポーツトレーナー養成コースのカリキュラムを選択で導入
- ② 都築学園のグループ連携で強みを活かす
 - ・日本薬科大学への編入学制度のシステム確立
 - ・学ぶ分野の拡大・変更・Wスクール・転校転科約30校
 - ・就職先の拡大と業界からの支援
- ③ 広報力・教育力強化の為の創意工夫
 - ・オンライン活用の工夫
 - ・コミュニケーションの重要性(年6回の定期面談)
 - ・カウンセリングサポートとの連携
 - ・活動研修日の有効活用
 - ・学力支援・補習授業実施
 - ・実習教育の効果
 - ・すべてのコンテンツを広報へ
 - ・都築学園だけではない教育機関との連携

7. 総評

上記10項目に対し、評価委員による平均評価は3.1(4段階評価)であったことから、関東柔道整復専門学校のエデュケーション活動、学校運営はいくつか課題はあるものの、概ね適切に維持されていると認識する。

評価委員からは、ホームページやSNSによる学校情報の積極的な発信と就職率100%の連続達成に対し努力の成果が評価された。しかしながら、定員充足を満たしていない厳しい学生募集状況の改善と国家試験合格率向上に対するさらなる取り組みについては問題解決に向け早急に取り組むよう指摘があった。

また、アフターコロナとなった今、時代に即した実践的な教育環境の整備、教育の質の向上、そして卒業生・保護者・地域コミュニティとの連携強化に努め、一連の活動を通じた学校知名度向上により、学生募集活動へ一層の努力を望む意見が提出された。

自己評価結果及び学校関係者評価結果の改善意見を踏まえて、更なる学校運営の充実を図る。

以上